



緑肥・緑化の部屋 23

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q

最近、ハクサイとブロッコリーの生育がよくありません。日中は葉がしおれ、ひどい場合は枯れてしまいます。原因は「根こぶ病」と言われましたが、なるべく農薬を使わない防除対策はありますか？



A

根を抜いてみて、根に丸いコブ（右上写真）のようなものが見られれば『根こぶ病』だと思います。根こぶ病菌は、9～30℃で活動し、20～24℃で最も活発になります。最近は温暖化の影響で、今まで問題となっていなかった東北などでも、多発するようになりました。

有機や特別栽培にこだわる方は、なるべく農薬は使いたくないでしょう。そこでタキイがこの度発売する緑肥用ダイコン「コブ減り大根」を使って“おとり”効果を利用した抑制方法をご紹介します。

そもそも、根こぶ病はどのようなメカニズムで発生するのでしょうか。

①根こぶ病菌は、土壤中に休眠孢子として眠っている。

②アブラナ科の作物を栽培すると、休眠孢子が目覚めます。

③目を覚ました孢子が、植物の細かい根に感染する（根毛感染）。

④その後、植物の大きい根に感染する（皮層感染）。

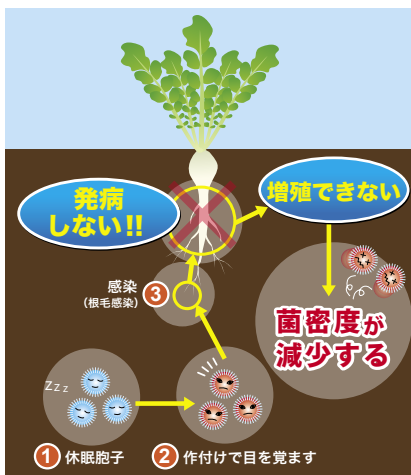
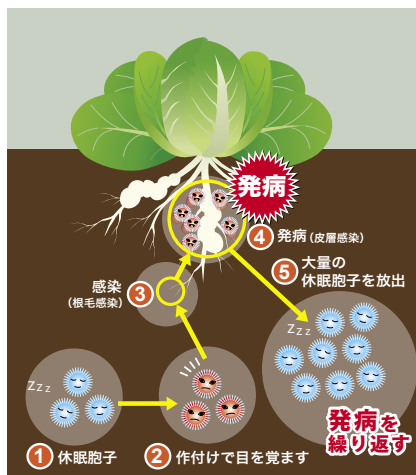
⑤根の中で急激に増殖し、コブを形成。そのため、根から養分を吸収できなくなり、弱っていく。

これら5段階の過程において「コブ減り大根」は、③の根毛感染までは許しますが、④の皮層感染までは許しません。目を覚ましたものの行き場所がなくなった根こぶ病菌は死滅してしまう仕組みです。

今年は、環境にやさしい「コブ減り大根」で、おいしい野菜を作ってみませんか？

（アブラナ科野菜の場合）

（「コブ減り大根」の場合）



（注意）フルスルファミド剤など、土壤中で孢子を眠らせるタイプの農薬が利用されている圃場では、おとり効果による休眠孢子の発芽は期待できません。薬剤の使用中止後、2～3年経過した圃場で利用してください。

おとり効果で根こぶ病菌を減らす！

（緑肥用ダイコン）コブ減り大根



〈播種期〉

- ・中間・暖地：3～6月、9～10月
 - ・冷涼地：4～9月
- ※北海道と東北の一部は栽培不可。

〈播種量〉

10a 当たり 3kg